

② 平成 25 年度明星大学全学入学前教育実施結果について

明星大学明星教育センター
センター長 原田 久志 殿

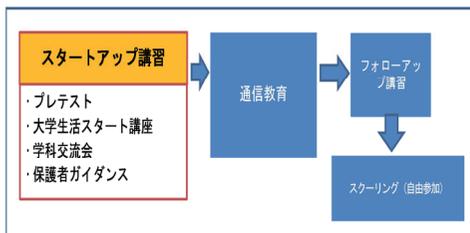
明星教育センター

平成 25 年度 明星大学 全学入学前教育実施結果について (報告)

1. 全体の総括について

平成 22 年度より、「スタートアップ講座」を取り入れた全学入学前教育プログラムを実施している。大学の提供する入学前教育を積極的に活用し、3 月末までの時間を有意義に過ごす意識をもたせ、年内入試合格者の不安を少しでも期待に変えていくことを念頭にプログラムを構成している。平成 25 年度は、(1) 大学生活への夢を膨らませる (2) 学ぶ意欲を引き出し、基礎学力を向上させる (3) 学び続ける事の重要性を認識させる の 3 つの目的を掲げ、実施した。

また、平成 24 年度までの入学前教育では、構成及び名称が不明確だったため、<図 1>のように全体的な整理を行った。講座内容や進行に特段影響を及ぼすものではないが、講座内容を充実していくことにより各講座等の位置づけやそれぞれの講座間の関係を明確にすることができたと考える



<図 1>

スタートアップ講習の中で学科との接続を考えた「学科交流会」では、教員や上級生となる在学生との関わりをもつことは、大学で学ぶための意識や動機づけになっている。参加した 98.2%の入学予定者が「学科の様子が分かった」「先輩との交流や話が良かった」「先生の話を開けてよかった」「新しい仲間と知り合えてよかった」という意見が多く聞かれた。これは、「在学生の声」に多くの入学予定者が熱心に耳を傾けていた結果だと考える。

また、スタートアップ講習に参加した保護者の 97.7%が、ガイダンスに対して「参考になった」という評価をしている。「在学生」を、これから成長していく子供の姿に重ね合わせており、好意的なコメントを多く寄せられた。特に、保護者にとっては、大学入学が早期に決まり、卒業までの高校生活への不安を抱える回答が多い。他方で、明星大学の歴史と教育理念への理解も 94.6%の保護者が「参考になった」と回答があり、明星大学への理解を深める良い機会の一助にもなっていると考える。

2. スタートアップ講習について

①プレテスト

通信教材のレベル判定を行うために例年通り「国語」「英語」のプレテストを全学科で

実施した。また、「数学」は「教的处理」「理系数学」として全学科に必須とした。理系科目は今回も自宅受験での実施とした。

②大学生生活スタート講座

「大学生生活スタート講座」の目的は、合格後に、新しい環境下のもと初対面同士で話し合い入学前に新しい知り合いを作ること、また大学生活に向けての準備を確認することとして、内容を構成し実施した。実際に、入学予定者は、全体に素直で、講座内容はスムーズに進行し、グループ学習での話し合いも盛り上がるグループが大半であった。その結果、94.5%の入学予定者が参加して「よかった」と回答をしている。また「新しい知り合いが出来た」「大学生活への準備の意識が高まった」等の意見が垣間見られた。

平成 25 年度の入学予定者の参加率は、89.0% (832 名/935 名) であり、前年の平成 24 年度の 84.6%(880 名/1040 名)と比較しても、4.4 ポイント参加率は上昇したことになる。

なお、詳細な入学前教育プログラムデータは学部支援室にて参照されたい。

3. 通信教育について

平成 25 年度も引き続き、本学の入学前教育通信講座は業者委託による「通信添削」を実施した。変更点としては、「文章力」を重視し、「書くこと」に慣れさせるため、読解問題に加えて、「200 字要約問題」と「600 字小論文」を課した。課題提出率は 96.4% (昨年 98%) となり昨年度より -1.6%となっている。原因としては、下記 2 点が挙げられる。

①通信教育の回数が昨年度の 2～3 回から 4 回に増えたこと。

②AO12 月生の提出率が低いこと (平成 24 年度 97.1%→平成 25 年度 89.3%)。これは、12/22(日)に実施した AO12 月の出席率も 7 割弱と低迷したことも原因の 1 つと考えられる。

現時点では、短期的な期間において学力アップには貢献できずとも、学習習慣を維持させ、期限を守る、理解できないものは調べる、聞く、という自律的な学びや大学生としての意識をもつ一助となり、入学後の学びに好影響があることを期待できる。

なお、通信教育の総括は業務委託業者：(株)四谷ゼミナール報告書を学部支援室にて参照されたい。

4. フォローアップ講習について

フォローアップ講習の対象は、通信教育の科目 (英語、国語・小論文、教的处理、理系数学) の課題について、1 つでも未提出(白紙答案含む)であった入学予定者である。実施時期は、3 月上旬に 2 日間で行った。大学での学びの一端を体験させ、自主的に学ぶ意欲につなげるグループワークを中心とした講義を実施した。対象者 136 名を呼び出し 67 名 (平成 24 年度 137 名中 84 名参加) が参加した。

5. スクーリングについて

フォローアップ講習対象者の中で講習に参加できない学生や、対象者以外でも主体的に学ぶ意欲のある入学予定者については、入学前からリメディアル教育を活用できるようにしている。25 年度の利用者数はのべ 35 名であり、前年度(平成 24 年度ののべ 355 名と比較しても大きく激減してしまった。

6. 平成 26 年度入学前教育プログラム実施に向けて

課題としては次の 2 点があがる。

① 実施時期の設定について

AO12 月対象の入学前教育を実施した 12/22(日)は 3 連休の中日での開始であり出席率が低かったため、課題提出の低下の原因になったことが考えられる。平成 26 年度については実施日の設定には配慮が必要である。

② スクーリング利用者数について

スクーリング利用者数が大幅に減少したのは、平成 24 年度までリメディアル教室を利用し、学科独自の入学前教育プログラムを実施していた学科が、取組内容を変更したことによって生じた結果だと考えられる。今後は、大学での対面式の指導は非常に高い効果が得られることから今後さらに利用者を増やす方を新たに考えていきたい。

以上のことから、平成 25 年度の結果を踏まえ、26 年度の入学前教育は、全学入学前教育に関する委員会において 4 年間の実施結果を検証し、充実したプログラムを提案したい。

また、平成 25 年度は 11 学科のうち 9 学科が学科独自の入学前教育プログラムを実施した。今後は全学入学前教育プログラムと学科の入学前教育プログラムのスムーズに接続し、各学科との連携、調整をおこなっていきたい。

以上